

私にとっては、3回目の東北。

1度目は、2012年の今回と同じ「東北応援ツアー」宮城県コース。その際は、南三陸町、そして石巻市を訪ねた。その際の感想は、「ひどすぎる状況。大震災から1年半。私の想像では、もっと復興が進んでいるのではないか思っていた。でも実際は、復興の「ふ」の字も手がつけられていないのではないかとさえ思えるような状況にびっくりした。被害の甚大さを痛切に感じた。」とレポートに記している。

2度目は2014年、家族とともに訪れた宮城県。そのときは、2年前の「東北応援ツアー」では行かなかった大川小学校にも訪れた。被害を受けた校舎を前にして、あの時、この場にいた子ども達はどんな気持ちでいたのだろうかと思い、雨の中、傘をさして呆然と立ちつくすことしかできなかった。

そして今回の3回目の東北、岩手県。

1日目の「三陸鉄道」の車窓から見える海の様子は、まるで何もなかったかのように穏やか。ガイド役の方からお話を聞かなければ、4年前のことはなかったかようだ。以前はここに街があったというお話は信じがたい光景が、車窓の外に広がっていた。

朝から雨の2日目。朝一番に見た陸前高田の「奇跡の一本松」。小雨の中に立つ7万本の中の1本の松。この場に7万本もの松林が広がっていたなんて本当なのか。なんという津波の力。テレビ等から流れてくる映像では感じなかったものを感じた。長く伸びたベルトコンベアはまさに復興の象徴だろうが、あまりにも弱々しい姿だった。このベルトコンベアが撤去される日は、いったい何年後になるのだろうか。

今回、このような機会を与えてくださった立命館大学校友会には、大変感謝しています。ツアーに参加し、実際に震災の現状と復興の現状を「感じる」という経験を通して、「自分には今、何ができるのか」ということを真剣に考えることが、私に課せられた今後の課題ではないかと思う。